

独立行政法人国立精神・神経医療研究センターの概要

○世界に一つだけの精神・神経センター

世界中に精神あるいは神経研究所は数多くあるがNCNPは精神と神経の研究と診療を一体的に行っている「世界にひとつだけのセンター」



○当センターの使命

病院と研究所が一体となり、精神疾患、神経疾患、筋疾患及び発達障害の克服を目指した研究開発を行い、その成果をもとに高度先駆的医療を提供するとともに、全国への普及を図る

設立: 平成22年4月1日

役員数(平成24年4月1日現在) :

常勤役員3名、常勤職員704名

主な組織: 神経研究所、精神保健研究所、
トランスレーショナル・メディカルセンター、病院

運営病床数: 468床

運営状況(平成23年度実績):

- ・総収益 124.4億円、総収支率 92.5%
- ・経常収益 124.4億円、経常収支率 94.2%
- ・1日平均入院患者数 397.5人
- ・1日平均外来患者数 478.1人
- ・外部資金獲得額 23.4億円 ※競争的研究資金含む

設置根拠: 高度専門医療に関する研究等を行う独立行政法人に関する法律(平成20年法律第93号)

センターの行う業務:

- ① 精神・神経疾患等に係る医療に関し、調査、研究及び技術の開発を行うこと
- ② ①に掲げる業務に密接に関連する医療を提供すること
- ③ 精神保健に関し、調査及び研究を行うこと
- ④ 精神・神経疾患等に係る医療及び精神保健に関し、技術者の研修を行うこと
- ⑤ ①から④に掲げる業務に係る成果の普及及び政策の提言を行うこと
- ⑥ ①から⑤に掲げる業務に附随する業務を行うこと

(独)国立精神・神経医療研究センターの行う事業

- ・病院と研究所が一体となり、精神疾患、神経疾患、筋疾患及び発達障害の克服を目指した研究開発を行い、
- ・その成果をもとに高度先駆的医療を提供するとともに、全国への普及を図る

研究・開発

【現状と課題】

- ①高度先駆的医療の開発及び標準医療の確立のため、臨床を志向したすぐれた研究・開発成果を継続的に生み出していくことが必要
- ②臨床研究を病院内で高い倫理性、透明性を持って円滑に実施
- ③精神・神経疾患等の特性を踏まえた戦略的かつ重点的な研究・開発の推進

医療の提供

【現状と課題】

- ①国内外の知見を集約し、高度先駆的医療の提供及び最新の科学的根拠に基づいた医療の提供を行う。
- ②患者・家族に必要な説明を行い、情報の共有化に努めることにより、患者との信頼関係を構築する。
- ③医療観察法対象者に対して、退院後の地域生活への安全で円滑な移行を支援する質の高い医療の提供を行う。
- ④重症心身障害児(者)に対して、心身の発達を促す医療及び様々な合併症を予防する総合的医療等、質の高い医療の提供を行う。

人材育成 情報発信

【現状と課題】

- ①センターが国内外の有為な人材の育成拠点となるよう、リーダーとして活躍できる人材の育成を行うとともに、モデル的な研修及び講習の実施及び普及に努める。
- ②センター及び都道府県における中核的な医療機関等間のネットワークを構築する。
- ③医療従事者や患者・家族が信頼のおける情報を分かりやすく入手できるよう、国民向け及び医療機関向けの情報提供を行う。

適切な業務運営のための組織・予算

【現状と課題】

- ①効率的な業務運営体制とするため、弾力的な組織の再編及び構築を行う。
- ②総人件費改革への取組
- ③効率的な運営を図るため、収支改善の実施及び電子化の推進
- ④法令遵守(コンプライアンス)等内部統制を適切に構築し、契約については、競争性及び透明性が十分確保される方法により実施
- ⑤能力・実績本位の人材登用などの確立に努め、優秀な人材を持続的に確保する。

■ 研究・開発

(1) 臨床を志向した研究・開発の推進

① センター内の連携強化

- 施設横断的多職種のための専門疾病センター(多発性硬化症、筋疾患、てんかん、パーキンソン病・運動障害疾患、地域精神科モデル医療)を整備し運営した。
- 基礎研究の成果を臨床での実用化に繋げられるよう、TMCを設置し、トランスレーショナル・リサーチの実施を支援する体制を整備した。
- センター内での共同研究115件(22'95件)を推進した。

② 研究基盤の整備

- TMCにおいて、バイオソース収集体制を整備したことにより、登録検体数は1,096件(22'898件)となった。
- IBICを設置し、大型画像機器研究体制を整備した。
- TMC棟、クラスター研究棟を開棟し、支援体制を整備した。

③ 産官学等との連携強化

- TMCにビジネス・デベロップメント室を設置し、産官学等の連携を推進した。また、産業界や先端施設等との共同研究契約25件(22'26件)を実施した。
- 国内大学との連携大学院、国外大学との人材養成、国外研究所との研究推進などを目的とし連携を強化した。

④ 研究・開発の企画及び評価体制の整備

- TMC臨床研究支援部において、臨床研究業務手順書を整備するとともに、臨床研究簡易相談窓口を設置し、48件(22'43件)の相談を実施した。

⑤ 知的財産の管理強化及び活用推進

- TMCビジネス・デベロップメント室で知財研修の実施及び管理・審査体制を強化し特許出願11件(22'10件)を行った。

(2) 病院における研究・開発の推進

① 臨床研究機能の強化

- 研究に有効に活用するため、筋ジストロフィー(累計登録904件)や遠位型ミオパチー、パーキンソン病などの希少疾患及び難病患者登録を推進した。
- 国際共同での医師主導治験等を推進するため、CRCを常時10名配置し、臨床研究及び治験の課題数172件(22'154件)を実施するとともに、FPIまでの平均日数の短縮にも努め平均42.7日(22'48.6日)となった。

② 倫理性・透明性の確保

- 倫理審査の円滑化を図るため倫理審査申請システムを開発し、有害事象の情報収集や報告に活用するとともに、倫理性確保のため、研究倫理に関する研修受講記録制度などを整備し研修を行った。

(3) 戦略的・重点的な研究・開発の推進

原著論文・総説発表件数677件(22'648件)

(1) 疾病に着目した研究

- ヒト筋レポジトリーの中から、新規の先天性筋ジストロフィーを発見した。
(CHKB遺伝子の変異)
- 神経軸索変性過程における細胞内分子基盤を明らかにし、さらにこれを阻害することにより、ワーラー変性が抑制できることを示した。
- 視神経脊髄炎患者(NMO)では、インタロイキン6依存性のリンパ球(プラスモブラスト)がアクアポリン4抗体の産生に関わっていることを明らかにした。
- 薬物依存、摂食障害や睡眠障害に対する認知行動療法の実践研究を実施した。
- fMRIイメージングにおいて、経頭蓋磁気刺激(TMS)により誘発される脳活動の時間変化をはじめて検討することに成功した。

(2) 均てん化に着目した研究

- 精神科病棟における隔離拘束の実態を簡便に把握できるよう、行動制限最適化データベースソフト(eCODO)を作製し全国展開を図るとともに指標開発に取り組んだ。
- 研究成果、公開講座等の積極的な情報発信や災害後の心のケア、アルコール関連、メンタルヘルス等をテーマにメディアカンファレンスを実施(計5回)した。